

## 平成30年度3回 千葉市史跡保存整備委員会 議事録

1 日 時 平成31年3月22日（火） 午前10時00分～午前11時30分

2 場 所 千葉市教育委員会 委員会室

### 3 出席者 【委員】

岡本委員（委員長）、青木委員（副委員長）、赤坂委員、竹内委員  
谷口委員、中村委員

### 【オブザーバー】

千葉県教育委員会文化財課 吉野主任上席文化財主事

### 【事務局】

（文化財課）滝田特別史跡推進担当課長、森本主査、須賀主任主事  
（加曽利貝塚博物館）高梨館長  
（埋蔵文化財調査センター）西野所長

### 4 議 題

- (1) 特別史跡加曽利貝塚グランドデザインに基づく整備について
- (2) 特別史跡加曽利貝塚の調査研究について

### 5 議事の概要

- (1) 特別史跡加曽利貝塚グランドデザインに基づく整備について  
整備の基本計画・実施計画について委員会の意見を踏まえて、業務に着手する。新博物館の基本構想・基本計画は十分な議論は出来ていないため、来年度の委員会に向けて事務局で検討する。
- (2) 特別史跡加曽利貝塚の調査研究について  
31年度の発掘計画については、部会を継続し、今後も検討する。

### 6 会議経過

#### 【開会】

（事務局職員）

ただいまより、平成30年第3回千葉市史跡保存整備委員会を開催いたします。本日の会議につきましては、千葉市情報公開条例に基づき、公開です。

なお、本日、高橋委員は、諸事情によりご欠席の連絡を受けております。

オブザーバーとして千葉県教育委員会文化財課より吉野主任上席文化財主事にご参加いただいております。

本日の会議につきましては、委員半数以上のご出席をいただいておりますので、千葉市史跡保存整備委員会設置条例第5条第2項により、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

それではこれより議事に移らせていただきます。ここからは、岡本委員長に進行をお願いしたいと存じます。

岡本委員長、よろしく申し上げます。

## 報告事項 (1) 加曽利貝塚グランドデザインの策定について

(岡本委員長)

それでは事務局より、ご説明申し上げます。

〔事務局説明：資料により、説明。〕

(岡本委員長)

お手元に冊子も届いておりますが、ご意見ありましたらお願いします。

(中村委員)

インパクトが小さいかなという感じがするのが率直な感想です。発表されて、これに対する色々な方の反応や反響はいかがですか。

(滝田担当課長)

この内容で、地元の若葉区長の対話会が先週あり、地域住民の方や希望する団体・学生にお集まりいただいて説明会を行いました。一番多かったのは、これはあくまでもデザインであって、整備にあたっては引き続き地元の意見・関係者の意見をよく聞いた上で、しっかり設計等を進めて欲しいという意見がありました。

といいますのも、グランドデザインではイメージのデザインをお示しましたが、肝心の博物館の施設規模や構成は、今後決めていきますので、これにつきましては色々なご意見を取入れながら、若葉区を代表する施設となるように進めていただきたいということでした。

(岡本委員長)

当然ですよ。それは住民の方の要望からもある。赤坂先生どうですか。

(赤坂委員)

あまり先走ってもいけないと思いますが、気になるのは博物館の位置づけ・規模です。そのあたりが後悔の無いように進めてもらいたいと思います。

(岡本委員長)

このグランドデザインの策定は、市の中においてはどのような位置づけなのですか。

(滝田担当課長)

市全体の基本構想・実施計画と連携していく個別の部門計画です。

(岡本委員長)

市の中である程度合意はされて、進めていくことができるグランドデザインですよ。

(滝田担当課長)

はい。ですので、今回教育委員会が独自に作った計画ではなく、市全体でやっていくという意味で、千葉市・千葉市教育委員会という連名で策定しております。

(中村委員)

本物を感じるというフレーズがありますね。この本物というのは、ずばりこういうものを感じて欲しいという言い方で良かったのではないかと思います。これからでもいいと思うのですが、我々も含めて、ポリシーやこれが本物でこれを伝えたいというのをもっと議論したはずだと私は思いました。その辺を打ち出した方がいいのではないかと。

目指すべき姿が先ほどから出てきますが、デザイン的な姿であって、延長線上には我々が伝えたい本質的な本物があるはずだと思います。

今回もこのフレーズのなかで我が国の文化の象徴という言葉を使っていて、これは非常に重い言葉です。我が国の文化全部の象徴というわけにはいかないけど、ある時間軸で区切った縄文文化。高梨館長が言った【環状貝塚文化】という言葉。その文化は何であるか、我々はそれを議論してきたと思うので。それをもう少しストレートに表明して良かったのではないかと。

言い方は色々あるはずですが、この中で人々が自然ともに生きる文化であると。それで持続可能な社会を築いていくと。先程、会場までの途中で青木先生が言ったSDGsの話をしながら来たという面もあって、我が国文化の象徴と言い切る以上は、その次の中身をもう少し打ち出して、その上で色々な人の意見を聞いていくことをお願いできればと思います。

(滝田担当課長)

そういった面も踏まえまして、今後の情報発信に努めたいと思います。

(竹内委員)

博物館を移設した段階で、どうしても交通アクセスが問題になってきます。今の段階ですと、国道51号からの導入がメインになっていますが、博物館が移設した段階で、あちらからの入場も抑えておかないと。国道51号からだけでなく小倉台とか。集客の面では少し心配ですね。

(滝田担当課長)

アクセス進入路の話だけではなく、周辺への影響もふまえて、交通計画というものを31年度に策定する必要があると考えています。

その前段で交通量調査を行っていきませんが、現段階では千葉都市モノレール(株)に依頼して、モノレール利用者数のデータであるとか、既存の周辺道路の使用状況のデータ等々を収集しております。これから交通量調査をやった上できちんと考えていきたいと思っています。

その際は、またご意見頂戴したいと思いますのでよろしく願いいたします。

(谷口委員)

少し抽象的だという意見もありましたが、恐らくそれは研究が実はまだ不十分で、新たな研究のスタートにもしたいということだと思います。

加曽利貝塚は著名ですが、なかなかわかりきっていないところがあります。研究をこれか

ら新たにスタートしてもらい、研究成果を発信していく仕組みを作ることが大切だと思います。

それと、このランドデザインの冊子を拝見して、例えば23ページの図面は縦横比があってないと思います。ページ割の都合でこうなってしまったのだと思いますが。

図面はやっぱり正確にさせていただきたい。他のページにもそういうのがあります。

(滝田担当課長)

しっかり改善に努めていきたいと思います。データは調整します。

(青木副委員長)

全体的に意見を言うことはないのですが、これから実施する時、特に短期的な物については大変だと思います。色々な意味で。挙げればきりがありませんが、体験学習をするゾーンのところで復元家屋を作ったりする時に、たぶん消防法の問題で規制がかかる。その中で本物性をどう表現するか。登呂遺跡はコンクリ製の復元家屋を作って体験学習をしている。そのあたりは十分検討していかないといけない。逆に言えば、新しい姿を提案していくのもありかだと思います。短期的整備にも問題が出てくると思います。

(岡本委員長)

今後このランドデザインを元にして、色々な問題が出てくるとは思いますが、その都度委員会でお諮りいただいて、進めて行ければと思います。

他に御意見無いようでしたら、報告事項2「30年度の事業報告」を事務局の方からご説明をお願いします。

## 報告事項 (2) 30年度の事業報告について

(岡本委員長)

それでは事務局より、ご説明をお願いします。

{ 事務局説明：資料により、説明。 }

(岡本委員長)

ご意見ありましたらお願いします。

(竹内委員)

加曽利貝塚の魅力向上で、春まつりと秋まつりが会期は2日ずつで、春は1万人、秋は7千人という随分とした差があります。これはどういう理由によるのでしょうか。

(高梨館長)

分析をしましたが、秋まつりは同様のイベントが各地で開催されており、お客様が分散したようです。

これを解消するため、来年度の事業計画では、時期をずらして計画しております。ただ、昨年度実績と比べると、1日あたりの集客では、今年度の方が多かったという実績はありません。

(竹内委員)

分析してこれからの集客に継続して活かしてください。

(青木副委員長)

秋や春まつりの内容は、イベントとしては一般的ですよ。今後は、地域住民の記憶に残るようなことを考える必要があるかと思います。今はやりの言葉でいうと、「集合的記憶を形成する」でしょうか。そういう祭りのあり方も計画していく必要があると思いました。

(赤坂委員)

数字の扱いですが、2ページ目の下に、コンテナ236箱ときちんとした数字が出ていますが、1ページ目の参加者1万人という表現はきちんと確認しましたか。概数であれば、約をつけるとか。数字が丸くなっているけど、他と数値の扱いを揃えてはいかがかかと思っています。

(谷口委員)

1ページ目の冒頭のところ、外部委託の縄文体験プログラムですが、具体的にはどういったところに委託しているのですか。

(高梨館長)

イベント事業者です。博物館の作成した仕様書に基づき、プロポーザルという形で提案のあった事業者を審査して決定しまして、土日祝日に縄文体験を提供しております。

(谷口委員)

本物に触れるということを中心に考えていくとのことですが、両立が難しい課題ですね。

(高梨館長)

博物館の教育事業の一環として、この委託プログラムでは、博物館は楽しい所なんだよ、ということを知っていただきたいと思っています。このプログラムの主な対象は、未就学児童とそれに伴う家族であり、博物館利用のファーストステップとして、小さい子でも体験できるような意図で実施しているところです。

参加者1700人の裏には、その家族として4倍の数が隠れているということで、これが将来的な博物館、それから加曽利貝塚の支援者となってくださるものと博物館では考えております。

(谷口委員)

そういう計画について、この委員会ではそこまで具体的には話し合わないの、どういう風に計画が立てられて、どういうコンセプトで進めていくのかということ、を少し今後の議題に入れ込んで行った方がいいのかなという気がします。

それと博物館事業と特別史跡推進事業に項目として分かれています。博物館と特別史跡推進は一体で、教育普及と魅力向上は切り離せないと思いますが、それが別立てになっているところが気になっています。

(高梨館長)

実態としては一体に実施していますが、あくまで市の予算科目の差だとお考えいただければと思います。

(谷口委員)

あまり気にしなくてもいいということでしょうかね。

(赤坂委員)

私は指定管理のコンサルを審査する立場だったことがあって、今、指定管理も非常に多様化して、かなり面白い、色々な取組みをするようになっていきますね。

(竹内委員)

事業者の応募には何社来たのですか。

(高梨館長)

来年度の方はこれから募集しますが、今年度は3社でした。

(滝田担当課長)

グランドデザインのPR効果はここにもありまして、昨年度はそれほど事業者の方の反応はなかったのですが、今年グランドデザインを策定して発表したところ、東京の事業者からも営業として縄文体験の提案が増えました。

今後特色ある取り組みについては、委員会の中でご紹介して議論していただく機会を設けていきたいと思います。

(赤坂委員)

それはぜひやってほしいですね。

(谷口委員)

グランドデザインの冊子を拝見していて、例言5に「千葉市ふるさと応援寄附金のうち特別史跡加曽利貝塚・・・」とありますが、これはふるさと納税の関係のものでしょうか。千葉市はふるさと納税の返礼品とか決めていますか。加曽利貝塚のものも何かの体験に親子で参加できるなどがあればよいと思いますが。

(滝田担当課長)

いわゆるふるさと納税制度とは異なります。現在は花火大会のチケットなどはあるようですが、加曽利貝塚にちなんだものはありません。今後検討していきたいと思います。

博物館は入館料もありませんし、体験も全て無料です。今後新しい博物館ができたり、特色あるイベントを行ったりする際には有料のものも出てくると思います。そういったもののお返し品も踏まえて、考えていきたいと思います。

(中村委員)

教育普及的なことでは、千葉市科学館と私は色々関わっており、大高館長が海の自然で何かプログラムをとということで、加曽利貝塚にちなんだことで検討しています。来年度の実施を検討していますので、よろしくお願いします。

もう1つ、今年度調査研究で発掘もしました。今回報告書も発行されて、新たな成果や研究上の発見で、何かこれはということはありますか。

(西野所長)

博物館の具体的な目指すところを専門職の間で意見交換を始めようと思います。その中で博物館が出来てからではなく、今できることを検討していくんですけど、場所がなかなか

無くて、みんな人が集まっているのは加曽利貝塚博物館ですが、調査研究をする場所がない。今すでに埋文センターでできることもかなりありますので。

(中村委員)

この紀要で、海水がどこまで到達していたかというラインが今回示されました。今まではしっかりした研究がなかったので、すごいなと思いました。それから高梨館長が、環状貝塚文化と書かれています。折角、1年間色々な調査をされているので、毎年毎年こういうのがわかったというのはPRしていく必要があると思います。

(岡本委員長)

今まで第1期の今の発掘は、3か年終わった後に報告をすぐ出すということですか。今の晩期の成果とどこまでわかったかは、調査もずっと続いていくので、区切りをつけたところで出していく。それから市民にも成果を還元していくということが大切です。今の体制では大変だと思いますが、頑張ってください。

もう1つは、加曽利貝塚のデータベースをどういう形で蓄積していくかを、新しい博物館を作っていく前に検討してください。そういったデータベースみたいなものが発信できる新しい博物館になればと思います。そういうデータベースはあるんですか。

(西野所長)

個人的に作っているものがあるので、それを加曽利貝塚のものと位置付けていくつもりです。

(岡本委員長)

個人的なものを公のものとして、どういうデータベースを作っていくかを含めて、今後の調査委員会でも検討してください。西野所長はご専門だからやっておられると思いますが、金子資料の整理もあります。少なくとも貝塚の資料は加曽利貝塚が発信できるように。どういう形のデータベースを作っていくか。奈文研にもないので。

(西野所長)

ありますけど更新されていません。

(岡本委員長)

そういうものでいいのかも含めて検討し、そういうものが発信できる長期的な計画をぜひ作ってください。

他に無ければ来年度の調査も含めて、次の報告事項「31年度の事業予算」に移ります。

### 報告事項 (3) 31年度の事業予算について

(岡本委員長)

それでは事務局より、ご説明をお願いします。

〔事務局説明：資料により、説明。〕

(岡本委員長)

ご意見ありましたらお願いします。

(谷口委員)

教育普及事業はこれだけ事業をやっているで予算が60万円ですね。

(竹内委員)

少し予算が少ないですか。

(滝田担当課長)

見える予算はこれだけですが、ここは職員自ら講師を務めているので、人件費を含めるとおそらく結構な市税が投入されています。

(高梨館長)

材料費のみが現れている状況です。

(青木副委員長)

教育普及事業の中で、例えば最近小学校ではデジタル教科書が使われ始めていて、そういうコンテンツは作る予定はありますか。小学校中学校の郷土教育の中で。

(高梨館長)

今のところは考えていません。加曽利貝塚博物館で重視していくのは、ボランティアガイドがおりますので、肉声での解説によるガイドツアー、それと火おこし体験などの体験を小学校の団体には徹底的に行っております。

(赤坂委員)

ボランティアは重要な働きをされていて、子供たちに直接接していると思いますが、ボランティアのスクーリングや研修は実施されていますか。

(高梨館長)

新人の方は、市で統一のボランティア基礎研修を受けています。それから、博物館独自の専門研修をしています。専門研修は、既存の会員の方も参加していただいて理解を深めるものと、月1回の例会時に、その都度新しい情報の提供をしています。他の協力団体は、土器づくり同好会と博物館友の会がありますが、その方たちも入っていただいて、加曽利貝塚で活動している皆様に博物館から毎年新しい情報を提供して、新たな理解をしていただいて、博物館と一緒にお客様に対応していただくようにしています。

(赤坂委員)

形式的なものの繰り返しだけでなく、新しい情報を入れながら、ベテランになった方にも対応できる研修を工夫されていることがよくわかりました。

(中村委員)

私もボランティアの方にお世話になりました。ボランティアの方に案内していただくと非常に一緒に行った人も大喜びでした。

そこで1つ。教育普及活動をこれだけ行っていて、デジタルで示す方法も1つだと思えますが、加曽利貝塚の土器とか木の実の利用とか、かやぶき屋根の作り方とか、ポイントポイントの解説みたいな冊子で、子どもから大人までわかるようなものがあるといいんじゃないかと思いました。既にそういうものはありますか。解説リーフレットでも、勉強にも役立つ



つみたいなのが何かありますか。

(高梨館長)

火おこしやアンギン編みの小規模なパンフレットはいくつかあります。しかし小学生をターゲットとして勉強に役立つものまではなかなか計画できていません。

(中村委員)

火おこしだけでも、その場で解説してもらおうととても理解ができました。火おこしというあのやり方が、どういう形で縄文文化に貢献しているとか、ああいうことがジャンル別にシリーズであるといいかなと思いました。

(赤坂委員)

例えばマテバシイの食べ方とか。そういうリーフレットの加曽利貝塚のシリーズができるといいですね。

(中村委員)

そうですね。そういうのが蓄積されるといいと思いますね。手前味噌ですが、県立博物館で生態園のシンポジウムを行って、生態園のガイドブックを色々な角度から出しています。そうすると、10年経つと昆虫植物鳥など、色々な形でわかるようになる。加曽利貝塚も多面的にやっているとわかりやすくしていくのかなという気がします。

(竹内委員)

体験型というと、千葉商工会議所で、ひな祭りの時につるし雛の製作体験をしています。そうするとものすごく人が集まる。博物館でもこうやって色々事業を展開していて大変だと思いますが、本当に積み重ねが大切だと思います。参考にお知らせしました。以上です。

(青木副委員長)

これを見ると、無機の物がほとんどですね。縄文研究の傾向とか、土器づくりとか石器づくりとか骨角器とか。無機物を扱う体験学習ですね。今までの研究の蓄積があって、そういうのが割としっかり組み立てられて体験ができているから、これはこれで体系化したのは加曽利貝塚なのでいいですが、有機物のものがあまりありません。

縄文の暮らし体験の中に入っているかもしれないですが、有機物に関するもので、食べ物や、赤坂先生から出た話とか、着るものというものをまとめて、1つの生活体験で縄文文化の復元をしてほしい。そういうことを新博物館に向かって、少し研究的に蓄積する方向を考えていただければと思います。

(赤坂委員)

そうすると縄文の暮らしが無機的なものではなく、食べ物や暮らしを1つのユニットと考えていくと面白いですね。

(青木副委員長)

僕らの世界だと、壁画のシンポジウムを行って、最近是有機物の分析手法が大変発達していて、絵の具を作る時の接着剤まで分析できています。その手法を入れていくと、もう少し有機物の広まりができて、新しい体験学習が作れる方法になるかと思っています。

(高梨館長)

現在の縄文体験は、衣食住をテーマにしています。アングイン編みのように繊維を作って編み上げる、それを復元した縄文服という形で試着体験をやっていただく。竪穴住居に入って火を焚いて、縄文土器でお湯が沸くところを見ていただく。それからドングリを炒って割って食べていただくとか。イボキサゴのスープ試食をしているのですが、なかなか食品を扱うのはリスクがあって厳しいので、その辺を配慮しながらなるべく縄文人がやったであろうことを追体験して、縄文時代を理解していただくということを「縄文暮らし体験」として今やっているところです。

その他、ナイトミュージアムで夜、外灯を消して真っ暗にしてどんな状況になるのか、夜の時間帯を使って博物館の体験メニューもやっております。遺跡自体の空間的な利用と時間的な利用をあわせて、縄文時代を追体験できることを考えてやらせていただいております。

(青木副委員長)

麻だとかを植えての体験はいかがですか。

(高梨館長)

カラムシが自生していますので、それを使って繊維を作っております。

(滝田担当課長)

参考までにグランドデザイン29ページに、有用植物を使った体験プログラムをうたっております。御意見を参考に頑張ってプログラムを探していきたいと思っております。

(谷口委員)

研究について少し。博物館紀要は、今後もこういった形で継続していきますか。特別史跡になって、グランドデザインにも研究についてうたわれていて、新たに何かリニューアルをして研究計画を立てる仕組みと、研究成果をどういう風に発信していくのかという形を議論してもいいのかなと思います。以前の委員会でも発言したと思いますが、この形では、博物館の関係者の書くものが年報的に出てくるというものです。博物館の関係者や学芸員が発信していくのはもちろん必要なことだと思いますが、三内丸山遺跡では、外部の研究を公募して、50万円くらいの研究費用をつけて、研究成果を紀要に発表していく仕組みを作っています。

前に紹介した津南町の例だったと思いますけど、1件10万くらいの研究費を付けて、若手の研究者に調査に入ってもらい、その調査研究の成果を出してもらって、それを掲載していく仕組みを作っています。

加曽利貝塚ならばそういうことができると思うし、貝塚研究あるいは縄文研究にテーマを絞っていいと思いますが、そういうことを実施してもう少しボリュームのある研究報告みたいなものが刊行できないのかと思います。

(滝田担当課長)

グランドデザイン検討する中でも、職員が研究するだけでなく外部からも来て研究する

ような資料・場所も博物館に求められる機能に位置付けていますので、おっしゃるとおりそういうものも少しずつ検討していかなければいけない時期に来ていると思います。

(岡本委員長)

今、早稲田大学でもレーダー探査を実施していますね。今後そういったものに振り分けていくことも可能になりますね。

(谷口委員)

この博物館紀要は非常に重要なものだと思いますが、これはどうしても市の予算というものがあから、今の方法を継続する方が楽だとは思いますが、やはりそれだとちょっと発展できないんじゃないか。今後の50年、100年を考えると、この方法の継続ではなく、もっと発展的な形があるんじゃないかと思います。

(高梨館長)

それにつきましては、新博物館の建設構想の中で、今後の研究体制を議論し、将来的に縄文時代の貝塚文化の研究センターを目指すのであれば、市の職員だけでなく、色々な研究者が共同研究に参加できるような組織と設備を目指していくようなことを検討していければと考えています。

(谷口委員)

この予算を見ると、縄文文化調査研究は約244万円とありますが、純粋に研究に使われている予算はどれくらいでしょうか。これは印刷経費が入っています。今後は純粋に研究に当てられるある程度の予算があって、それにはきちんとした研究計画があって、それを審議して計画に予算をつけていく仕組みを作らないと、なかなか研究の質の向上にはつながらないと思います。

(滝田担当課長)

検討してまいります。

(中村委員)

ただ今のは、大事なご指摘だと思います。新博物館をつくるためにも、調査研究の成果をどどん形にしていけないと。博物館の中身が重要になると思うので。

理系と文系では違うと思いますが、この紀要の中身は素晴らしいと思います。これは、レフリー制は敷いていますか。

(高梨館長)

査読はなしです。一応館長決裁です。

(中村委員)

学術の世界では、国内でも学術団体がありますけれど、その前にこういうレフリー制を敷いて、落とすためのレフリーではなく、より良くするためにレフリーをするとなった時、外部の共同研究者をレフリーするような立場で共同研究員となったりするし。そういうのを早目にやって、その成果を博物館に活かすようにして行った方がいいのかなと思います。

先ほどもこの予算は印刷費だけですよね。調査研究は学会に行くとか、中の調査だけでな

く関連施設に行くということは行政の人はすごく嫌がるけれども、それは本当に大事なことです。それがないと、世界的発信なんて口先だけで、見に行ってもやる気をなくしてしまうことにはならないようにしてほしいと思います。

(赤坂委員)

私がいた学部でも、学部の紀要はありました。それは論文なのかっていう批判もあって、中身を色々変えたことがありました。

学部の紀要っていうのは、世界に発信するっていう気持ちがないと、内々でやっているように見られてしまう。それをレフリー制とかあるいは貝塚博物館は私たちのメディアで、これで世界に出ていくんだということを考えれば、やはりちゃんとした論文の作り方とかレフリーがどうしても必要だと思います。

将来は英語版をつけて。アブストラクトだけでいいんです。

(中村委員)

単純にこれは貝塚研究っていう風にして、紀要だけじゃなく貝塚の研究を担うということでもいいのかもしれないね。

(岡本委員長)

紀要というと、市内部の学芸員の体制で今まで蓄積したのしょうから、貝塚に関する研究を募集してもいいでしょう。募集だけならば費用が発生するわけではないでしょうから、そういったものを紀要の中に出すということになれば、外部の研究者も加曽利貝塚に関するだけでないにしろ、貝塚研究の成果を出すという仕組みがこれから作って行けばいいと思います。

レフリー制というのは調査委員会があるわけだから、そういうものの中でやっていることにすれば、外部的にはいいと思います。

今までの延長線上でずっと来ていますが、それを新しい形にどうやってするのか、これから議論して事務局でたたき台をこれから作って、新しい博物館が出来た時にどうやってしていくのかを今から考えて欲しいと思います。

(高梨館長)

研究レベルを上げるには、そういう方法をとらざるを得なくなってくると思います。また、そういった査読を入れて質を高めるとともに、私も以前、新博物館開館の際には国際シンポジウムを開催したらいいのではないかと発言したこともあるのですが、将来的には国際共著論文とか、そういったレベルまで貝塚研究ができれば本当の意味で加曽利貝塚博物館が貝塚研究の国際センターみたいになれば非常に理想的だと思います。

(赤坂委員)

ネイチャーとか「この雑誌に掲載される」、というのを目指してくるようになるでしょうね。

(岡本委員長)

報告事項3点、これでよろしいですか。それでは議題に移ります。

## 議題 1 グランドデザインに基づく整備について

(岡本委員長)

それでは事務局より、ご説明をお願いします。

〔事務局説明：資料により、説明。〕

(岡本委員長)

ご意見ありましたらお願いします。

これは来年度予算の中には入っていないんですか。

(滝田担当課長)

入っています。資料3の1番上に出ています。博物館移転準備の中ですね。

(岡本委員長)

他に御意見ございますか。

(中村委員)

集落の復元という課題がありますが、私がずっともやもやしているのは、住居と貝塚の関係がどうなのかよくわからなくて。今貝塚の外れに住居があつて、こういうゾーニングは当時も基本なんではないでしょうか。

貝塚の真ん中に住居があるとか、貝塚の中にはないのか。

(西野所長)

時期的に大きく変わっていくのですが、最初にここに集落が出来た時には、北貝塚の貝層の下付近に圧倒的に人が住んでいた。住居跡が出てくるので、それは間違いのないことです。どちらかというところに住むことは少なく、そこに集まって住んでいる。環状のムラというイメージをしていただいて大丈夫だと思います。

その後、千葉県の大規模貝塚は全部無くなるのですが、その時に住んでいた人たちというのは、北貝塚を避けて、その周辺にたくさん広い範囲に住居跡がある時期になります。その時期の集落の中心が今の復元住居のあたりになります。

今の場所に復元住居があるのは、どういう風に見せるかというよりも貝層にかからないということが大きかったと思います。

その後後期の大規模貝塚が出来ると、南貝塚に大きな貝塚を作るとともに、北貝塚をもう少し貝層を環状に完成させたいと考えていたことが分かってきたのですが、その時に住んだ人の住居というのは、南貝塚の貝層のあたりとそれよりももう少し外側中心だと思うんですが、はっきり言って発掘からはわかっていません。どこに多いのかということさえ。

(中村委員)

環状貝塚の外側ですね。いずれにせよ。

(西野所長)

後期の場合は貝層の外側メインだと思われかもしれませんが、今のところ発掘ではわかっていません。ただ、今はっきりわかったのは、晩期になると真ん中の方にだんだん住居跡がなくなっていく。小さくなっていくというのは千葉県どこでもそうですが、加曽利貝塚の場合もそ

ういう状況でちゃんと晩期まで住居跡がたくさんあることが今回の調査で確認されました。晩期だけはちゃんと確認されたけど、後は他の県内の他の貝塚から類推している形です。

(中村委員)

加曽利貝塚はフィールドミュージアムということで、外で学んだり考えたりする時に、貝塚そのものというのと暮らしの拠点の住居、畑は無かったと思うけど狩猟採集の森とか川とか沼地とか、その辺のまさにランドデザインはやったのですが、生活という面ではもう一度確認して、どこに住居跡があるのか、今のところでいいのか、再現した家がどの辺にあるのか、いつ頃の再現なのかきちんとやっていかないといけないと思って。

まだそこまではいかないと思うけど。設計もその辺がわかっていないと設計できないと思って聞きました。よろしくお願いします。

(青木副委員長)

この図の中で、北貝塚の住居跡の野外観覧施設は、今回の短期的計画の展示手法の改修と耐震補強の実施設設計の対象となっているわけですね。この実施設設計の中に断熱効果のことも加えていただきたいです。おそらく保存のためのキーポイントになると思います。建物としての断熱。

もう1つ、貝層断面施設は、これは短期的整備の対象ではなく、長期的整備に入れるんですか。

(森本主査)

北貝塚の貝層断面施設については、そもそも入口の構造にも問題がありまして、周辺の道路と併せて一体的に整備する必要がありまして、長期の方で行いたいと思います。

(青木副委員長)

これは依然として公開するわけですよ。その時に貝層の前にあるガラスフェンスは何らかの対策を考えた方が良くと思います。安全の確保するための問題があると思いますので。いずれにしても長期的な対応の中でも構わないんですけど、何らかの対策を考えていただけたらと思うのですが。以上です。

(岡本委員長)

他に無いようですので、それでは次の議題に移ります。

## 議題 2 特別史跡加曽利貝塚の調査研究について

(岡本委員長)

それでは事務局より、ご説明をお願いします。

〔事務局説明：資料により、説明。〕

(岡本委員長)

ただいまの事務局における中長期計画について、これは予定でありますが大まかな指針をご報告いただきました。何かご意見ございますか。

(中村委員)

舟着き場のことはずっと私も興味があつて。貝塚の中はみなさん専門の方がたくさんいらっしゃると思いますが、今回の紀要で、7 m位までは海が来ていたのではないかと。今のこの湿地は、どのくらいですか。1 2 m位ですか。昔はもっと掘り下がっていた可能性があるのですが、これを見ると十分に舟が来た可能性が高いのかなと。

というのも、今は谷津って浅いですが、昔はもっと深くてあと4 m位の谷であれば、ここまで船が来られた状況だと思いますし、そうでなければこんなに貝がここにたくさんあったというのを説明できない。ぜひその辺の解明を期待しています。

また、オオガハスみたいなハスが出た事例が他にもあると思います。千葉市ではオオガハスが有名ですが、ああいったものの保存は非常に大変だけれども、その甲斐もあるでしょうから。あそこのボーリング調査でいくと、そういう海の時代から今に至るまで、貴重な環境資料が見つかる可能性があるのでぜひ貝塚と東京湾の関わりと人の暮らしが大事なポイントだと思うのでぜひお願いします。

(岡本委員長)

それでは他に御意見ないようでしたら、本日の議題2点について議論いただいたわけですが、ランドデザインに基づく整備については、整備の基本計画・実施計画について今日の委員会の意見を踏まえて、実際の業務に着手してください。

新博物館の基本構想・基本計画については十分な議論は出来ておりませんが、来年度の委員会に向けてご検討をお願いします。

発掘の中長期計画については、調査委員会で検討していただいた上、事務局案をご了承する形でよろしいですか。それから31年度の発掘計画については、引き続き部会を継続して、今後も検討していく形で進めて参りたいと思います。

以上、議題の2点については、来年度以降、この方針に基づいて進めていただけたらと思います。他に御意見ございますか。

(各委員)

特になし。

(岡本委員長)

無いようですので、これで会議を終了します。進行を事務局にお返しします。

(事務局職員)

委員の皆様、長時間、ご審議いただきありがとうございました。それでは以上を持ちまして、平成30年度第3回千葉市史跡保存委員会を閉会いたします。

——了——

問い合わせ先 千葉市教育委員会生涯学習部文化財課  
TEL 043-245-5960  
FAX 043-245-5993